

## 住民中心のまちづくり

a2200601 新井 ありさ  
 a2200605 入澤 佳世  
 a2200611 河合 愛  
 a2200623 長嶺 沙織

### 【背景および目的】

会津には多くの文化や歴史的建造物があり、会津アスティネーションキャンペーンなどの宣伝活動により観光客も増加しました。しかし、郊外に位置している観光スポット・大型ショッピングセンターの影響により、地域経済・社会の核である会津若松市中心市街地では、空き店舗の増加等により、その魅力が低下してきています。

昨年度の博労町で行ったまちづくり活動では数々の成果を上げたものの、住民との意識の温度差が大きく卒業研究の終了後は住民による活動の継続はありませんでした。

この反省を活かし今年度は、自分たちの町の歴史や良さを知ってもらい、町に愛着をもたせることで住民の意識を変え、住民が中心となって活動を継続できるまちづくりを目指していきます。

### 【研究方法】



### 【研究過程】

#### ・まちづくりについての調査

文献を調査し全国のまちづくり例や方法について学びました。まちづくりと言っても色々あり、その中で自分達はどのようなまちづくりを行っていくかをみんなで話し合った所、住民を中心としたまちづくりを行っていくことに決めました。

#### ・公募による研究、対象地域の選択

まちづくりについて色々学んだ後、私達が行いたいまちづくりが出来そうな地域を探すために会津若松市内(主に景観協定締結地区)を写真などを撮りながら調査を行いました。その時にちょうど景観協定締結地区の代表者の方々が集まる会議があり、市役所の方の計らいでその場で、10分程度のプレゼンテーションを行うことができました。プレゼンテーションの最後には「まちづくりに参加してくれるか?今のまちでよくないところはどこか?」などを問うアンケートなどを配布しました。しかし、アンケートを返送して下さったまちは5カ所、そのうち参加を希望しているところは2カ所という結果でした。参加を希望された所も新興住宅地であるなど私達の考えるような地域ではなかったため改めて地域を探すことにしました。ちょうどそんな時に「まちづくりに参加してみたい!」と先生に名乗りをあげてくれたまちがありました。代表者の方々5人と集まり話あったところ、とてもまちづくりに積極的でしたので私達は、甲賀町通りを対象にまちづくりを進めていくことに決めました。

#### ・現地調査



#### 特徴

- ・道を少し入ると飲み屋などの通りになってしまい、表通りの店と路地の店では様子が大きく異なっている。また夜は表通りにタクシーが列をなしている。
- ・町にはすずらの形をした街灯がある。
- ・外観は統一されているところもあればない所があり、少し寂しい感じがする。
- ・当時の郭門が唯一残っている。
- ・道路が一方通行。

### ・アンケート調査

主な商店数	配布した数	回収した数	回収率
19	14	10	70%

質問内容	多かった回答
1. 現在の甲賀町について	：歴史がある、景観を改善すべき
2. 商店について	：自慢すべきところは老舗であるところ (インターネット環境)：インターネット環境が整っているところは7件
3. 統一看板について	：必要、モチーフは歴史にしてほしい
4. 甲賀町に関する情報	：天王様の祭礼(7月15日) 甲賀町口郭門のエピソードなど

(まとめた結果)

甲賀町でまちづくりをしていくに当たって私達はアンケートを行いました。アンケート後に感じたことは、住民は甲賀町の歴史をアピールしたいと思っていることがわかりました。商店の多くは昔から続いている老舗が多く、景観も重要と考えている方も多いようでした。

統一看板については必要と答えた方が多く、歴史をモチーフとしたデザインにしてほしい(特に郭門など)という意見がとて多くありました。

#### ・商店への聞き込み調査

アンケート後に町のことをよく知るために毎週甲賀町に行き、商店の方々に顔を覚えてもらうこともかねて話を聞きに行きました。そこで甲賀町の歴史などを聞くことができました。また、その結果も踏まえて自分達のまちづくりへの考えを回覧板で回すことも行いました。

### 【商店街活性化活動に向けての基本姿勢】

- ・住民が参加してつくっていくまち
- ・継続していくまち
- ・歴史が伝わるまち
- ・統一感のあるまち
- ・自分達で愛着を持てるまち

### 【支援事業の内容と結果】

#### 1 HP制作

(目的)

- ・住民の方々だけでなく、他の人々にも甲賀町を知ってもらうため
- ・住民の方々が自分たちで町を築いていくという意識を強める

(結果)

公開が遅れてしまってアクセス数をのばすことができなかった。しかし、町の情報を発信することが出来たので、住民の方だけではなく他の人も見るようになった。

### 2 甲賀町通信 (平成19年11月1日より毎週発行)

- (目的)
- ・町の歴史を知ってもらうため
  - ・まちづくりの様子を知ってもらうため
  - ・町に興味を持ってもらうため
  - ・活動を通して、住民の交流をはかるため



配る時に付けていた名刺



第一号(11月1日発行)

(結果)  
住民との交流が多くなるにつれて、住人の方々と親しくなった。これで住民の方々の地元に対する意識が強くなってくれた。

### 3 ロゴマーク制作

- (目的)
- ・町の統一感をもたせる
  - ・町に親しみを持ってもらうため
  - ・他の町と違うオリジナルを出すため
  - ・HPや看板に甲賀町商店街のロゴマークとしてのせるため



(結果)  
すずらんをモチーフにした案をいくつか出してどれがいいかを選んでもらった。更に、訂正要望を出してもらうという作業を繰り返した後にロゴマークを決定した。それで住民の方々の賛同を得ることができた。

### 4 歴史4コマ漫画 (甲賀町通信に掲載)

- (目的)
- ・歴史を知ってもらうため
  - ・大人だけでなく子どもも楽しんで読んでもらうため

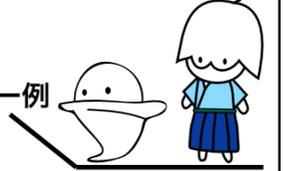


(結果)  
難しく読みづらい歴史が、4コマ漫画になったことによって誰もが楽しんで読めるものになった。

### 5 キャラクター製作

- (目的)
- ・町の統一感を持たせる
  - ・住民に親しみを持ってもらうため

中止になったキャラクター例



(結果)  
ロゴマークとキャラクターがあるとつこくなりすぎロゴマークが目立たなくなるためという意見もあり話し合った結果これは中止になった。

### 6 ブログ制作

- (目的)
- ・住民の方々の交流をはかるため



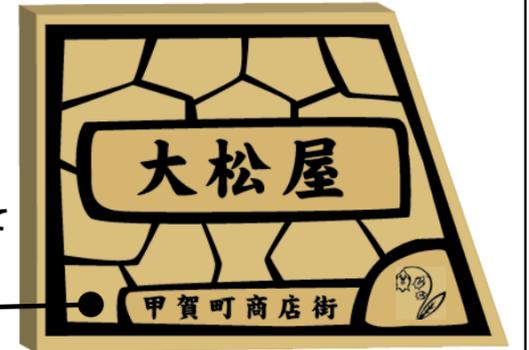
(結果)  
ブログを制作したが、住民の方々がブログのやり方がわからず理解してもらえなかった。また、忙しくてできないことからこれは中止になった。

### 7 模型制作

- (目的)
- ・外観を統一することで景観整備効果を目に見えたもので表現するため
  - ・形にすることで住民に景観整備に興味を持ってもらうため

### 8 統一看板

- (目的)
- ・町の統一感を持たせる
  - ・デザインモチーフは郭門
  - ・去年の博労町の看板に造りを似せることで町と町のつながりを表す



甲賀町にある郭門をモチーフとして使用してほしいというイメージから右のようなデザインに決まった。

### 【考察】

私達4人は、先輩達のまちづくりの反省点を活かし「住民を中心としたまちづくり」をテーマに活動してきました。最初は公募により、まちづくりに協力してくれる町を探しましたが思うようにいきませんでした。しかし、先生の紹介で甲賀町に決まり、その後何回かまちづくりの内容のお話をしました。住民の色々な要望と私達の意見をまとめるとき、やるが多すぎて一つにまとめあげることが難しかったと思います。

私達はグループでの活動なので、夏期休業中のとき皆の予定があわずなかなか作業ができないこともありました。

甲賀町通信を行うようになってからは、計画的に作業が進んでいきまちづくりの活動ががままとまっていけたと思います。更に、これを行ったことによって住民の方々と親しくなれ、住民のまちづくりに対する思想が見えた気がしました。

私達のまちづくり活動は、住民の方々にやる気を出してもらうためのきっかけに過ぎません。これによって住民が町に興味を持ち、今後のまちづくりを積極的に行っていただけたらと思います。今回の経験を今後様々な所で生かしていきたいです。